

令和7年度 授業改善推進プラン（保健体育科）

1 学校全体の取組

- 研究テーマ
学び合い、教え合い、高め合う集団の育成 ～対話的な学びの充実を目指して～
- 研究仮説
心理的安全性の視点に基づいた学級経営・集団の育成を図り、それを基にした学び合い・教え合いの活動を取り入れた
授業を行うことで、生徒の対話的な学びが充実し、新たな視点・価値観を見出すことができるようになる。
- 協調学習について
研究テーマの実現を目指し、その仕掛けとして「協調学習」を推進しています。
協調学習：一人ひとりの生徒が自らの頭で考え、仲間と考えを比較吟味し、より適切な答えをつかっていく学習スタイル。

★安田 裕昭

2 全体アンケートからみる研究テーマに対する教科の成果

- 全体の成果
・全体アンケートより「最初はグループの考えがばらばらだったけれど、話し合っていくうちに新しい考えを作り出したことがある」や「最初は自分の考えがまとまらなかったけれど、友だちと話す中で自分の考えがはっきりしたことがある」など、対話的な活動を行っていく中で新たな考えに出会ったり、自身の考えをより深めたりすることができたと答えた生徒が90%近いこと。生徒が協調学習という学習スタイルから、新たな学びを得られたことを実感することができている。
- 教科の成果（アンケートなし）
・体育分野の実技の中で円滑に協調学習を取り入れられたこと。特定の上手い生徒だけが意見を言うのではなく、自分が担当した技能について説明したり、アドバイスしたりすることができた。
- ・

3 全体アンケートからみる研究テーマに対する教科の課題

- 全体の課題
・全体アンケートより「相手が話している内容が分からないときは、『分からない』とはっきり伝えている」や「考えを話し合うことが好きだ」という問いに対して肯定的な回答をした生徒はおよそ70%で、30%は否定的な回答をしている。対話的な活動の中で、新しい学びを得られる実感をしている一方、話し合いの中で、自身の意見をしっかりと伝えられなかったり、話し合い活動自体に苦手意識をもっていたりする生徒もまだ多くいる。教師側から協調学習を行う際の更なる仕掛けや工夫が必要となっている。
- 教科の課題（アンケートなし）
・協調学習を活用できる場面が限られているように感じる。話し合いの時間と体を動かす練習時間との兼ね合いが難しく、話し合いが上手くいくだけでは技能の習得に必ずしもつながらない。協調学習を取り入れるタイミングと実施時間のバランスを見極めながら授業に取り入れていく必要がある。

4 課題に関する分析（児童・生徒の実態含む）

- ・協調学習の授業では、話し合い活動にはほとんどの生徒が意欲的に取り組んでいたが、運動の苦手な生徒が、自分で割り振られたパートについての説明に苦戦していた。
- ・協調学習を取り入れることで、反復練習の時間は減ってしまうため、「（単元の）どこで」、「どれくらい」取り入れるかを見極める必要がある。

5 課題を改善するためのより具体的な手だて

- ・教師側からの題材の提示を工夫するとともに、エキスパートごとの反復練習（実技は）時間をしっかり確保し、話し合い活動が始まる前に、自信をもって技能の説明ができるようになっていられるようにする。
- ・各単元の中で協調学習を取り入れた授業は1回程度で計画する。単元を通してのねらいの実現により近づけられる題材で取り入れるのがよいと考える。

★加藤 哲史

2 全体アンケートからみる研究テーマに対する教科の成果

- 全体の成果
・全体のアンケートより「このクラスでは、失敗するかもしれないことも安心して挑戦できる。」という結果が90%に上昇している。このことより協調学習での話し合い活動においても自分の意見を堂々と言えるクラス環境であると考えられる。アンケート結果より「挑戦することに対する安心感や自信の向上」、「失敗を恐れずに新しいことに取り組む意欲の増加」が考えられ、失敗を恐れずに挑戦できる環境が整ってきている。この協調学習を通して個人のスキル向上が期待できると考えられる。
- 教科の成果（アンケートなし）
・体育分野の実技の中で協調学習を取り入れられたこと。特定の生徒だけが意見を言うのではなく、自分が担当した技能について説明したり、アドバイスしたりすることができた。

3 全体アンケートからみる研究テーマに対する教科の課題

- ・話し合いの時に暑さの要因に負けて話し合いが進まない。
- ・アドバイスできる人もいるが、応援のみの生徒がいた。
- ・技能に入る前に理論をまずは意識してほしい。（どうして～するのか）
- ・話し合い活動の人数を少なくすること。
- 教科の課題（アンケートなし）
・協調学習は、話し合いと体を動かす時間との配分が難しく、効果的に技能習得につながるタイミングと時間のバランスを見極めながら導入する必要があると感じられる。

4 課題に関する分析（児童・生徒の実態含む）

- 話し合いを体育館などで行い、実技を外で行うように適宜修正しつつ行っていく。
- 見るポイントを伝えていく。
- 振り返りの時間を設けることで、話し合いの内容を整理し、技能習得にどうつながったかを確認する。

5 課題を改善するためのより具体的な手だて

- ・各グループにホワイトボードを用意して全員の話の内容を視覚化していく。
- ・チェックリストを作る：生徒に渡して、それに沿って動作を確認させる。
- ・フィードバックタイムを設ける：実技後に「良かった点」「改善点」を共有し、次に活かす。